

秋岡 伸彦
東京農大客員教授
1938年生まれ。東大文学部卒。
元読売新聞コラムニスト。

演劇活動

東京農大の全学組織「農友会」の部活動について、前回から続く。体育系に劣らず、文化系の活動も活発に行われているが、今回は、戦後間もなくの演劇部の学生たちの、ひたむきな青春をしのぶ。(敬称略)

戦後農村の葛藤を描く

昔 手元に、1冊の古い台本がある。図書館大学史料室に保管されていたそれはガリ版刷りで、幾分か黄ばんだ表紙に、飯塚卓『立春大吉』と大書されている。

舞台設定は終戦から3、4年後、関東地方の農村の旧家だ。農地改革で零落した家を継ぐため大学を中退、苦勞の一步を踏み出した長男を中心に、当時の農村の葛藤を描いている。

作者、飯塚卓(本名・倬朗)もまた栃木県の旧家の長男で、1944年(昭和19)東京農大農業経済学科に入学した。在学中、演劇部のために著した台本は自らの体験、見聞に基づく。

その処女作『垣根(もがり)』の演劇部公演は49年の学生演劇コンクールで脚本賞などを受賞した。さらに『立春大吉』が世間の注目を浴びたのは52年12月だった。

東大、早大など14校が参加、日本橋三越劇場で開催された文部省芸術祭「第1回大学演劇コンクール」で見事、創作演劇賞に輝いたのだ。後日、ラジオ東京で放送されてもいる。

「農村社会を描いた異色の学生演劇」とたたえた日本農業新聞の劇評は、旧家の長男の役について、こう



「芝居は最高!」を熱演する部員たち



写真上:『立春大吉』の舞台(日本農業新聞の紙面から)
写真下:その台本。飯塚の書き込みがある。

書いている。「インテリ青年で難しい役どころ。それを松田藤四郎君はよく演じとおし、劇としてのユルミを見せなかった。演技としては同君だけが光っている」「松田君」とは当時、農業経済学科1年、現在の東京農大理事長である。「あのとき、久保田万太郎さん(当時、日本演劇協会会長)から役者になれと言われましたよ」と懐かしむ。

作者の飯塚は50年卒後、文筆活動に入る。『垣根』の主人公竹村篤の名をペンネームとして、『小説東京農大』などを著した。2005年(平成17)7月2日死去。享年78歳。

文化系25団体が活発に

今 東京農大の農友会傘下で現在、25の文化団体が活動している。演劇研究部は年4回の公演を行っており、昨年12月の卒業公演では、フランツ・モナルの傑作喜劇「芝居は最高!」を熱演した。その他、農友会初期からの伝統を誇る文芸部、講演部、さらに農大独自のユニークな農村調査部、海外移住研究部などがある。